



# Volunteer Seminar Journal

## 2012 Autumn

### Contents Volunteer Seminar Journal 2012 Autumn

#### 001 ボランティア支援室の歩み

大震災、そして支援室開設から一年を振り返る

#### 002 担当教員からのメッセージ

東北大学 大学院 法学研究科 教授 千壽 哲郎

#### 003 ボランティアツアーレポート

被災地スタディーツアー / 山元町いちご農園ボランティアツアー  
岩手県沿岸ボランティアツアー

#### 004 広報活動

オープンキャンパスボランティアフェア / 支援室掲示板の設置

#### 005 支援室について

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室とは / スタッフコラム



山元町いちご農園ボランティアツアー



1泊2日岩手県沿岸ボランティア

# ボランティア支援室の歩み



スタートアップフェア



石巻スタディーツアー



東北コットンプロジェクト



鎮守の森復活プロジェクト

2011

06/

東北大学東日本大震災ボランティア支援室設立

12/20

第1回ボランティアセミナー

第1部:被災地と大学をつなぐ 第2部:東北大生とボランティア

2012

01/12

第2回ボランティアセミナー

第1部:ボランティアの活動内容と体験談 第2部:フリートーク

01/17

第3回ボランティアセミナー

第1部:ボランティアに対する不安について 第2部:被災地の現状について

02/09

第1回ボランティア相談

当支援室スタッフと約15のボランティア団体の担当者が、参加者一人ひとりに合わせたボランティア関連情報をお伝えします～

02/21

第4回ボランティアセミナー

第1部:広島大学震災復興支援ボランティア「OPERATIONつながり」の活動紹介  
第2部:広島大生と東北大生の意見交換

04/01

ボランティアセミナージャーナル2012春号 発行

04/

編集協力:"HARU"

スタートアップフェア

支援室のスタッフと学内外のボランティア団体の担当者が、参加者一人ひとりに合わせたボランティア関連情報を伝える。

04/07

気仙沼中学校、秋田五城目第一中学校との野球交流試合

震災により練習場所の失われた気仙沼中学校に、東北大学がグラウンドを提供し野球を楽しんでもらおうという企画。交流のある秋田五城目第一中学校、広瀬中学校も参加し、当日の指導には本学の野球サークル「レイダース」も協力した。

05/04

石巻スタディーツアー

石巻で現地住民から話を聞いたり、被災の現場を生で見ることで、被災地及びボランティアについて学ぶ企画である。

05/05

七ヶ浜がれき除去ツアー

七ヶ浜でがれきの撤去をする企画である。

05/19

東北コットンプロジェクト

東北コットンプロジェクト事務局主催、支援室は後援として参加。津波被害を受けた荒浜の農地で、塩害に強い「綿」の種を植えることで農家を支援できるしくみをつくることを目的とする。

06/07

スタートアップフェア第2弾

支援室のスタッフと学内外のボランティア団体の担当者が、参加者一人ひとりに合わせたボランティア関連情報を伝える。

06/24

鎮守の森復活プロジェクト

日本財団学生ボランティアセンター・一般社団法人ワカツク主催、支援室共催で実施。震災によって失われた山元町の鎮守の森を植樹により蘇らせることを通じ、地域コミュニティの再生を図る。

07/30

ボランティアセミナージャーナル 2012夏号 発行

07/30-31

東北大学オープンキャンパス

オープンキャンパスを訪れた高校生に、東北大の取り組みを知ってもらうためブースを設置。

08/04

巨理スタディーツアー

Information>>p3

08/11

山元町いちご農園ボランティア

Information>>p3

09/08-09

1泊2日岩手県沿岸ボランティア

Information>>p4

09/13

農地復旧ボランティア

ReRoots協力のもと、神戸大学の学生と一緒に農地復旧作業を行う企画である。

10/13-14

気仙沼高校、志津川高校とのバドミントン強化合宿

震災による被害が大きかった気仙沼高校、志津川高校のバドミントン部の生徒を招いて、本学学友会バドミントン部と合同練習をする企画。

# 担当教員からのメッセージ

## 学生生活をより豊かなものに

### 東北大学大学院法学研究科教授 千壽哲郎

(せんじゅ あきお 1988年東京大学農学部卒、経済産業省特許庁入庁、2011年4月より東北大学大学院法学研究科教授、東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室の運営に従事。)



**震** 災後の平成23年11月に東北大学が実施した東北大学生の生活調査の結果概要が、「平成23年度<東北大学学生生活調査>のまとめ 東北大学生の生活」として取りまとめられています。それによると、東日本大震災の大学生活への影響について、「研究・修学」に影響があったと回答した学生の割合は、学部生で26%、大学院生では54%ありました。一方、「震災に関連したボランティアの経験」の有無については、学部生の34%、大学院生の36%が、なんらかの震災ボランティア活動を経験したと回答しています。皆さんは、この調査結果をどのように受け止めたでしょうか。私は、多くの東北大学生が、その本分ともいうべき学業が思うように進まない中であっても、震災ボランティアに取り組んでくれたことに大いに感心したのですが、同時に、震災ボランティアについて知る機会がなかった学生や、実際に行動に移すきっかけがないままに過ごしている学生も、まだ多くいるのではないかと想像しました。

私は昨年4月に所属官庁から東北大学への出向を命ぜられ、仙台に赴任してきました。東北新幹線は復旧しておらず、引越業者からは仙台への荷は引受けられないと断られ、家財道具も十分に揃わないまま、自分の車に布団一式と当座の身の回りの品だけを積み込んで、仮復旧したばかりの東北自動車道のでこぼこ道をひた走り、仙台入りしたことを覚えていています。震災による直接の被害を受けていない私でさえ、生活の不便を感じましたし、続く余震に不安を抱きましたが、毎日ニュースで流される震災復旧に奮闘する人々の姿に胸を熱くしたり、被災された方の家屋の片づけを手伝う機会などを通じて、これからの日々を仙台で過ごすということは、東北復興への歩みに日常的に関わっていくことなのだという思いを強くしました。震災当時すでに東北大学生だった皆さんはもちろん、震災後に東北大学を志望して入学された皆さんの胸の内にも、東北・仙台の復興に向けて「自分に

何かできることはないか」という素直な気持ちが宿っているのではないのでしょうか。

学生時代とは、あらゆることにチャレンジできる若さと機会を与えられた時期のことだと思います。学業はもちろん、課外活動や趣味に打ち込んだり、自己研さんやアルバイトに励むこともできます。多くの友人と出会い、青春を謳歌するのもよいでしょう。そして、これらの活動とともに、被災地たる仙台で学生生活を過ごす皆さんには、「震災ボランティア」を選択肢の一つに加えることで、学生生活をより豊かなものにして欲しいと願っています。ボランティア支援室は、皆さんの内なる思いを行動に移すきっかけ作りにこれからも取り組み、仙台での学生生活がより豊かになるよう、支援していきたいと思っています。

# ボランティアツアーレポート



## 被災地スタディーツアー

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室主催  
宮城県亶理郡亶理町 2012/08/04

**平**成 24 年 8 月 4 日、当支援室主催により、被災地スタディーツアーが開催され、学生 19 名が参加しました。

このツアーは、震災によって甚大な被害を受けた亶理町を訪れ、震災の爪痕を参加者に肌で感じてもらうとともに、震災復興ボランティアの体験を通じてボランティア活動への関心を高める目的のもと、企画されました。当日は現地の NPO 法人「亶理いちごっこ」の協力のもと、瓦礫焼却場や、瓦礫の山、鳥の海市場、荒浜中学校を回ったあと、同団体主催の「わたり Home Coming Day」に参加し、イベントの手伝いを行いました。本ツアーは、その参加者の多くにとっては初の被災地訪問となったことから、被災地の現状を知る貴重な機会であったと同時に、復興ボランティアへの意識を高めるきっかけとなりました。

### 参加者の声

**津**波で流された家の土台跡を見た時の衝撃は、今でも忘れられません。今回のツアー参加のきっかけは、テレビで見る被災地の本当の姿を自分の目で確かめたかったからです。被災地の状況はある程度わかった「つもり」でしたが、実際には全く違うものでした。3 時 55 分で止まった時計、上半分の無い電柱…。映像だけでは伝わらないものがあります。今でも脳裏に鮮明に焼き付いています。また、今回のツアーで特に感じたのは人の温かさです。地元 NPO の催しにお手伝いとして参加させて頂いたのですが、会う人が皆、人との繋がりを大切にしている、町全体が一つの家族の様でした。被災地や原発の記憶が少しずつ薄れ行く中で、私はこの体験を伝えること位しかできません。しかし、伝えることこそ大切なのだと思います。瓦礫を片づけることだけがボランティアではありません。ぜひ一度、被災地に足を運んで欲しいです。そんなことを感じさせられたツアーとなりました。

工学部 1 年 石井肇



## 山元町いちご農園ボランティアツアー

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室主催  
宮城県亶理郡山元町 2012/08/11

**平**成 24 年 8 月 11 日、当支援室主催により、「山元町いちご農園ボランティア」が開催され、33 名の学生が参加しました。

本ツアーは、津波被害によりほとんどの農家が経営の継続が困難となっている亶理郡において、インターンやボランティアを受け入れながら事業再開を目指している半澤農園の協力を得て実施する運びとなりました。当日は農園のスタッフの指示のもと、掃除や培土入れなどの作業を行うとともに、震災以後の経緯などの話を伺いました。蒸し暑いビニールハウス内での作業となりましたが、無事に活動を終えることができました。

### 参加者の声

**今**回のボランティアでは、被災地の支援だけでなく、山元町の特産品であるイチゴについて知ることが出来たと思います。私は、県外出身なので、イチゴが山元町の特産品だということとは知らず、どのように栽培しているのかわかりませんでした。ビニールハウス内は、曇天であったにもかかわらず暑く、大変な作業だと思いました。農作業に関しては初心者であった私でしたが、農園の方が丁寧に教えてくださり、きちんと作業することが出来ました。イチゴの苗を植える前で、新しい土を加える作業を行いました。ヤシガラを盛っていきましたが、畝のように中央を高くするのではなく、端に多くのヤシガラを入れることには驚きました。ヤシガラの入ったかごを運ぶのは重くて大変でしたが、この作業によってイチゴができるのだと思うとがんばれました。体を動かすことで、自分が役立てているような気がしました。今後も積極的にボランティアに参加していきたいです。

医学部 1 年 森川巧麻

# 広報活動



## 1泊2日岩手県沿岸ボランティア

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室主催  
 神戸大学東北ボランティアバス共催  
 岩手県 2012/09/08 - 09

平成24年9月8～9日、当支援室主催・神戸大学東北ボランティアバス共催により、「1泊2日岩手県沿岸ボランティア」が開催され、本学から14名の学生が参加しました。本ツアーは、昨年5月から大槌町・陸前高田市を中心に活動を行っている神戸大学の学生らと仮設住宅をまわり、足湯サービスなどを通じて支援を行うという内容でした。本学の学生にとっては、被災地の方々と交流を持ち、生の声を聴く貴重な機会であり、また神戸大学のボランティアから良い刺激を受けることもできました。9月13日には、このツアーの関連イベントとして、ReRoots協力のもと、東北大生と神戸大生による農地復旧ボランティアが行われました。当日は若林区荒浜を訪れ、農地の瓦礫撤去や畑おこしなどの作業を行い、こちらも無事に終了しました。

### 参加者の声

なんとなく、地元の方々はどういった活動を望んでいないのではないかと考えていました。でも実際は違って、次はいつ来るの？毎週来てほしいよ、という言葉がツアー中よく耳にしました。やはりこれは、定期的に東北に足を運んでいる神戸大学さんが地元の方々との信頼関係を築き上げているからだと思うし、震災ボランティアは継続的に行うべきものだとして再認識させられました。大船渡の活動で親しくなったおばあちゃんが自分の畑でとれた野菜を持ってきてくれて、みんなでそれをいただいたことがとても印象に残っています。二日間一緒に活動した神戸大、東北大の学生さん、そして地元の方々、ツアーに参加して様々な人と出会い、わたしは人との出会いや関わりをもっと大切にしていきたいと強く感じました。今回津波被害地域でのボランティアは初めてでしたが、行かなかったら気付かなかったことだらけでした。企画してくれた支援室さんに感謝したいと思います。

農学部1年 今野美実

## オープンキャンパスボランティアフェア

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室主催  
 宮城県亘理郡山元町 2012/07/30 - 31

平成24年7月30～31日、東北大学オープンキャンパスが開催されました。今年度は2日間で約5万7000人の来場者を迎え、施設・建物の復旧の途上であるとはいえ、国立大学でも屈指の規模で開催することができました。当支援室は高校生の方々にボランティア活動について関心を持ってもらうことを目的とし、パネルや質問コーナー等のブース展示を行いました。当日は大勢の方にご来場いただき、東北大学生のボランティアとの関わりについて知ってもらえる機会となりました。



## 支援室掲示板の設置

川内北キャンパス厚生会館多目的室

2012年6月より、東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室は、本学の学生に広くボランティアについて知ってもらうことを目的に「支援室掲示板」を設置しています。支援室の行ったツアーや、支援室に登録されているボランティア団体の活動状況などの情報は、こちらの掲示板でも得ることができます。

# 支援室について

## 東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室とは

東北大学では、東日本大震災によって被害を受けた地域の復興のために、ボランティア活動を行う学生を支援する「東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室」（通称「支援室」）を設置しています。支援の内容に関しては右記のとおりです。

### 登録団体として認められた団体に対して

- ・学生へのボランティア情報の提供
- ・ボランティア活動に関する物品等の支援

### 東北大学の学生に対して

- ・ボランティア活動を希望する学生を対象としたイベントやボランティアツアーの企画
- ・ボランティア活動に関する各種の相談やケア

### ホームページ更新中！

支援室企画のイベントやボランティアツアーのお知らせ、登録団体のボランティア募集情報、これまでの活動の様子などがご覧になれます。ぜひご利用ください！

>><https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/>



### スタッフ募集のお知らせ

東北大学東日本大震災ボランティア支援室では、学生のボランティアへの関心を喚起し、ボランティア活動に参加するきっかけとなるような企画の立案および運営を行う

学生アシスタントを募集しています。詳細は川内北キャンパス管理棟1階の②番窓口（学生支援課）まで問い合わせてください。

## スタッフコラム

夏の夏に、東北大学ボランティア支援室では東北沿岸地域にて多くのボランティアおよび見学ツアーを実施致しました。私たちは、東北大生が少しでも「東北の未来」に関心を持っていただけたらと思っています。震災は東北地方に大きな爪痕を残しました。住宅などの建造物はもちろん、東北の方々の心の中にもそれは深く刻み込まれています。しかし、東北の方々は元来

とても我慢強く、たくましい精神を持っています。「俺たちはこの街を再生するんじゃない。創生していくんだ。」ある漁師の方の力強いお言葉です。皆さんも東北の地に未来の種をまいてみませんか。未来の東北は今より美しく色彩豊かな地となって私たちを迎え入れてくれるでしょう。

工学部4年・男



## Volunteer Seminar Journal Autumn

2012年11月2日発行

発行者

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室

教育・学生支援部学生支援課内

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41

電話 022 (795) 7818

©2012 Tohoku University Printed in Japan